

平成 30 年 6 月 11 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K11893

研究課題名(和文) 看護実践並行型の熟達的な地域アセスメントのモデル化と新任中堅保健師向け教材の開発

研究課題名(英文) Development of a Community Health Needs Assessment Model Concurrently with Nursing Practices by Proficient Public Health Nurses and Creating the Teaching Material for Newly and Mid-Career PHNs

研究代表者

塩見 美抄 (SHIOMI, MISA)

兵庫県立大学・看護学部・准教授

研究者番号：10362766

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：熟達した保健師の実践に並行して発展・深化する地域アセスメントをモデル化することを目的に、グラウンテッド・セオリー・アプローチによる熟達者へのインタビューを行なった。結果、地域アセスメントのゴールと、そこに至る継続的な思考や行為の発展を図示したモデルが完成した。ゴールに至る必須条件は、地域課題を象徴した個別事例のアセスメントであることが明らかになった。

開発したモデルを元に、新任・中堅期保健師向け教材を作成し、アンケート調査によってモデルと教材の妥当性を検討した。結果、モデルによる実践の説明可能性、活用性、教材のわかりやすさについて、いずれも85%以上の者が肯定的評価をし、妥当性が示された。

研究成果の概要(英文)：To develop a model for community health needs assessment that is progressing and deepening concurrently with nursing practices by proficient public health nurses (PHNs), some interview surveys were conducted according to a grounded theory approach with PHNs as participants. As a result, a community health needs assessment model depicting the assessment goal and continuous thought/ actions toward the goal was completed. One of indispensable conditions to reach the goal was to understand the individual symbolizing community problems.

Next, the teaching material for newly and mid-career PHNs was created based on the model. To examine the validity of the model and teaching material, a questionnaire survey was conducted. It shows that they are valid; over 85% of respondents evaluated the interpretability and utilization of the model and perspicuity of the material affirmatively.

研究分野：地域・公衆衛生看護学

キーワード：看護学 保健師 地域アセスメント モデル開発 現任教育

1. 研究開始当初の背景

(1) 実践的な地域アセスメントと基礎教育との乖離

地域アセスメントは、活動の対象となる人々・地域の抱える健康課題の原因や本質を、多様な情報を基に分析・構成し、実践活動の目標や方向性を明確にすることを目的とした思考と行為の過程である。日本の保健師が行う地域アセスメントを、平野が「実践的協働型」と表現しているように¹⁾、熟達した保健師は看護実践の中で課題に繋がる気づきを得、実践を通じて課題の本質を明確にしていく、いわば看護実践並行型の地域アセスメントを行っている。このことは、筆者や吉岡が取り組んだ、事業化・施策化における熟達保健師の判断に関する先行研究²⁾³⁾においても明らかにされている。

一方で、日本の保健師基礎教育で用いられるテキストの多くは、欧米の地域アセスメントモデルを用いており、日本の看護実践並行型アセスメントよりはむしろ、実践過程の一時点で横断的に実施するものの様に表現される傾向にある。基礎教育と熟達した保健師の実践とは、乖離があると言える。

(2) 乖離が生んだ保健師の地域アセスメント能力自己評価の低さ

基礎教育と実践との乖離は、地域アセスメントのあり様を不明確にし、保健師の地域アセスメントへの苦手意識や自己能力評価の低さを生んだ。また、自身のアセスメントを表現する術となるモデルがないことで、苦手意識を払しょくできない現状がうかがえた。

保健師が自身の能力を妥当に評価しながら実践的な地域アセスメント能力を向上し、それを説明・表現できるようになるためには、実践と乖離のないモデルを開発することが必要である。その上で、モデルを使った教育教材を開発・提供することで、乖離を是正する必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、熟達した保健師の看護実践に内在する地域アセスメントをモデル化すると共に、新任期から中堅前期保健師を対象とした教材を開発することである。本研究により、保健師の実践知である地域アセスメント技術の明確化と一般化に貢献でき、国際的なモデルに発展させるための基礎を構築できると共に、教育と実践の乖離の是正につなげることができる。

3. 研究の方法

(1) 既存の地域アセスメントの理論・モデル・方法とその課題の明確化

モデル開発に有用な、地域アセスメントに関する理論・モデル・方法を明らかにすることを目的とし、検索サイト「医学中央雑誌」を用いて、2005年から2015年に発表された国内文献の遡及調査を実施した。検索用語は、「地域アセスメント(地域診断)」と「保健

師」であった。原著74文献を対象に、論文の主題、地域アセスメントを示す用語とその定義、使用されている理論・モデル・方法、明らかにされている地域アセスメントの課題や特徴の観点で分析した。

また、国内外の基礎教育で用いられている理論・モデル等を明らかにすることを目的に、地域・公衆衛生看護に関する国内外のテキスト(国外13誌・国内7誌)を比較検討した。

(2) 熟達保健師による実践並行型地域アセスメントの様相の明確化とモデル開発

熟達した保健師の実践に並行して発展・深化する地域アセスメントのモデル化に向け、その様相を明らかにすることを目的に、熟達保健師を対象に半構成質問紙による個別インタビュー調査を実施した。研究方法は、グラウンテッド・セオリー・アプローチ(オ木)を用いた。インタビューガイドは、理論開発に関する知見が豊富な海外研究者のコンサルテーションを受け、データ収集・分析に伴い加筆・修正をした。オープンコーディング、アキシャルコーディング、セレクトティブコーディングを経て、熟達保健師の地域アセスメントの様相を明らかにし、モデル化した。

(3) 新任期・中堅期保健師の地域アセスメントの実態の明確化

看護実践並行型地域アセスメントモデルを用いた教材の開発に向け、対象とする新任期・中堅期の地域アセスメントの実態と教育ニーズを明らかにすることを目的に、郵送法による無記名自記式の質問紙調査を実施した。対象は、全国都道府県・政令市等・市町村に常勤する、2000年4月以降に就職した保健師とし、全都道府県・市町村リストから1/3を無作為にサンプリングした。質問内容は、基本情報、地域アセスメントに対するイメージ、受けた保健師基礎教育の実態、受けた現任教育の実態、地域アセスメント能力の実態、工夫点等であった。得られた数量データはSPSSを用いて統計的に処理し、記述データはその意味を読み取った。

(4) モデルを用いた新任・中堅期保健師向け教材の開発とモデル・教材の妥当性検証

開発したモデルを用いた教材を作成し、モデルと教材の妥当性の検証のため、教材を用いたワークショップを2か所で開催して、その参加者にアンケート調査を実施した。得られた数量データはSPSSを用いて統計的に処理し、記述データはその意味を読み取った。

4. 研究成果

(1) 既存の地域アセスメントの理論・モデル・方法とその課題

対象とした国内74文献において最も用いられていた理論・モデル・方法は、Community as Partner Model(14文献)であり、次いで地区視診ガイドライン(9文献)、Ethnography(4文献)であった。また、半数以上の40文献では、どの理論・モデル・方法も用いられず、適切なものが存在していない可能

性が示唆された。

国外のテキスト 13 誌において用いられていた理論・モデル・方法は様々であったのに対し、国内テキストでは Community as Partner Model が 7 誌中 6 誌を占め、日本の基礎教育ではほぼ同じモデルを用いた教育が行われていることが示唆された。

(2) 熟達保健師による実践並行型地域アセスメントの様相とそのモデル

熟達保健師 6 名へのインタビューの結果、熟達保健師が実践を通じて継続的にアセスメントを発展・深化させながら「地域がわかる」に至る思考と行為が明らかになった。「地域がわかる」とは、地域課題を象徴するような個別事例の生き様・生活を、他の住民や地域と関連させながらとらえ、保健師活動を要する対象集団とその方向性が明確になった状態をさしていた。また、地域がみえない状態から脱却するための必須条件は地域課題を象徴するような個別事例のアセスメントであった。その上で、個別事例と地域を関連させ、集積した情報を統合して、熟達保健師は「地域がわかる」に至っていた。

熟達保健師の地域アセスメントの根幹には、ジェネラルな責任範囲、現場重視といった保健師活動観が明確にあった。地域アセスメントの発展には、担当地域の規模の変更、政策・施策の動向などの要因が、促進にも阻害にも影響していた。

最終的に、図 1 のようなモデルが完成した。

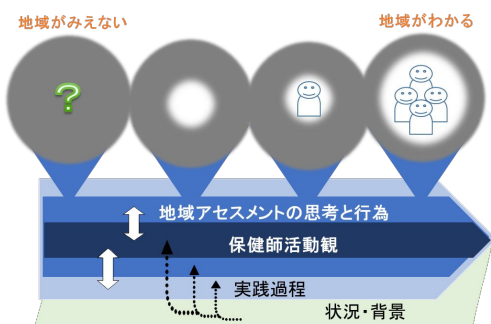


図 1 継続的地域アセスメントモデル

(3) 新任・中堅保健師の地域アセスメントの実態

実態調査アンケートの返送数は 1263、内有効回答数は 951 (75.3%) であった。保健師経験年数は、1-5 年目が 460 (48.4%)、6-10 年目が 299 (31.4%)、11 年以上が 192 (20.2%) であり、所属種類は市町村が 611 (64.2%) と半数以上を占めた。

地域アセスメントに対するイメージでは、「難しい」90.4%「面倒だ」74.7%と否定的なイメージがある一方、「役に立つ」95.8%「やるべきだ」96.3%といった肯定的イメージも持っていた。また、「基礎教育どおりにできない」87.0%とも感じていた。

地域アセスメントの能力を「保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度（厚生労働省、2010）」の地域アセスメン

トに関する 11 項目で問い、経験年数 3 群で比較した結果、「自然および生活環境のアセスメント」や「地域の人々の持つ力を見いだす」能力は、経験年数による差がなく、どの群においても低かった。

基礎教育では、Community as Partner Model や PRECEDE-PROCEED Model を中心に、何らかのモデルが用いられていた (84.9%) のに対し、現任教育ではほとんど用いられておらず (45.5%)、基礎教育と現任教育との間の継続性が乏しいことが示唆された。

(4) モデル・教材の妥当性

開発したモデルを用いた教材を作成した。教材の構成は、モデルの概要、「地域がわかる」とは、地域アセスメントの思考と行為、根幹にある保健師活動観、影響要因とし、新任期中堅期保健師向けの提案を加えた。提案内容は、「個をみよう、でもそれだけにとどまらないで」「実践から得た情報を蓄積・統合しよう」「保健師は何をする人かを自覚しよう」であった。

モデルと教材の妥当性の検証のためのアンケート調査の協力者は、ワークショップ参加者数 43 名中 42 名であった。結果、地域アセスメントのイメージが変化した者は 35 名 (83.3%) で、モデルの説明可能性は 36 名 (85.7%)、活用可能性は 41 名 (97.6%) が肯定的に評価した。教材の各内容については、いずれの内容も約 9 割の回答者が妥当と評価し、わかりやすさについても 38 名 (90.4%) が肯定的な評価をした。

以上より、開発したモデルおよび教材の妥当性が確認できた。

参考文献

- 1) 平野かよ子編：地域特性に応じた保健活動。p21, ライフサイエンスセンター, 2004.
- 2) 塩見美抄他：事業・施設展開を要する課題の明確化に向けた保健師の判断内容。日本地域看護学会誌, 7(1), 41-48, 2004.
- 3) 吉岡京子他：地域の健康問題に関する保健師による事業創出のプロセスと方策 課題設定と事業案作成の段階に焦点を当てて。日本公衆衛生学会誌, 51(4), 257-271, 2004.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

現在複数論文を執筆中である。

〔学会発表〕(計 11 件)

塩見美抄, 吉岡京子, 牛尾裕子, 田村須賀子, 小寺さやか, 井上清美, 嶋澤順子, 竹村和子. 継続的地域アセスメントモデルと新任・中堅保健師向け教材の妥当性の検証. 第 21 回日本地域看護学会学術集会, 2018.

塩見美抄, 吉岡京子, 牛尾裕子, 田村須賀子, 小寺さやか, 竹村和子, 井上清美, 嶋澤順子. 熟達保健師の実践に伴った地域アセスメントの発展 「地域がわかる」に至る思考と行為. 第 6 回日本公衆衛生看護学会学

術集会, 2018.

吉岡京子, 塩見美抄, 牛尾裕子, 竹村和子, 田村須賀子, 小寺さやか, 井上清美, 嶋澤順子. 新任・中堅期保健師の地域アセスメントに関する教育・実践の実態 (第1報): 地域アセスメントに関する理論・モデル・方法の実践での活用状況. 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2018.

牛尾裕子, 塩見美抄, 吉岡京子, 竹村和子, 田村須賀子, 小寺さやか, 井上清美, 嶋澤順子. 新任・中堅期保健師の地域アセスメントに関する教育・実践の実態 (第2報) 地域アセスメントの現任教職の実態. 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2018.

竹村和子, 塩見美抄, 吉岡京子, 牛尾裕子, 田村須賀子, 小寺さやか, 井上清美, 嶋澤順子. 新任・中堅期保健師の地域アセスメントに関する教育・実践の実態 (第3報) 実践している地域アセスメントの工夫と地域アセスメントへの思い. 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2018.

塩見美抄, 吉岡京子, 牛尾裕子, 田村須賀子, 小寺さやか, 井上清美, 嶋澤順子. 新任・中堅期保健師の地域アセスメントの能力とイメージの実態. 第76回日本公衆衛生学会総会, 2017.

Misa Shiomi, Kyoko Yoshioka-Maeda, Yuko Ushio, Daisuke Yamamoto, Sugako Tamura, Sayaka Kotera, Kiyomi Inoue, Junko Shimasawa, Kazuko Takemura. Community Health Needs Assessment Models Used in Public Health Nursing Education in Japan: Actual Condition Survey. TNMC & WANS International Nursing Research Conference, 2017.

塩見美抄, 吉岡京子, 牛尾裕子, 田村須賀子, 小寺さやか, 井上清美, 嶋澤順子. 熟達保健師の実践的・継続的地域アセスメントの根幹にある保健師活動観. 第20回日本地域看護学会学術集会, 2017.

塩見美抄, 牛尾裕子, 吉岡京子, 小巻京子, 田村須賀子, 小寺さやか, 井上清美, 黒田真理子, 嶋澤順子. 市町村合併前後における保健師の地域アセスメントの様相. 第4回日本公衆衛生看護学会学術集会. 2017.

Kyoko Yoshioka-Maeda, Misa Shiomi, Yuko Ushio. Clarifying the Community Health Needs Assessment Model Used in Public Health Nursing Textbook. The 3rd Korea-Japan Joint Conference on Community Health Nursing, 2016.

Misa Shiomi, Kyoko Yoshioka-Maeda, Yuko Ushio. Community Health Needs Assessment Conducted by Public Health Nurses in Japan: A Literature Review. 19th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2016.

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://chiiki-cnans.jp/research/research03/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

塩見 美抄 (SHIOMI, Misa)
兵庫県立大学・看護学部・准教授
研究者番号: 10362766

(2) 研究分担者

吉岡 京子 (YOSHIOKA-MAEDA, Kyoko)
東京医科大学・医学部看護学科・准教授
研究者番号: 00708951

牛尾 裕子 (USHIO, Yuko)
兵庫県立大学・看護学部・准教授
研究者番号: 00275322

(3) 連携研究者

田村 須賀子 (TAMURA, Sugako)
富山大学・医学薬学研究部・教授
研究者番号: 50262514

小寺 さやか (KOTERA, Sayaka)
神戸大学・保健学研究科・准教授
研究者番号: 30509617

山本 大祐 (YAMAMOTO, Daisuke)
兵庫県立大学・看護学部・助教
研究者番号: 10755820

井上 清美 (INOUE, Kiyomi)
姫路獨協大学・看護学部・教授
研究者番号: 20511934

嶋澤 順子 (SHIMASAWA, Junko)
東京慈恵会医科大学・医学部・教授
研究者番号: 00331348

竹村 和子 (TAKEMURA, Kazuko)
兵庫県立大学・看護学部・助教
研究者番号: 30724736

(4) 研究協力者

小巻 京子 (KOMAKI, Kyoko)
神戸市看護大学・看護学部・助教
研究者番号: 10632474